

# ヴィンチェンツォ・ベッリーニの声楽作品に関する演奏法と解釈の研究（平成28年度福岡教育大学研究推進支援プロジェクト）

最終更新日：2017年4月28日

【プロジェクト代表者】  
音楽教育講座  
教授  
橋本 エリ子

## キーワード

・音楽教育 ・歌唱指導 ・ベル・カント唱法

## プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

わが国の音楽教育において、声楽の勉強を始めようとする学生が最初に学ぶ教材として、17世紀から18世紀のイタリア・オペラやカンタータのアリアから選曲されたイタリアの音楽学者パリゾッティ(Alessandro Parizotti:1853-1913)の編曲による『イタリア古典歌曲集』(Arie Antiche Italiane)があるが、今日的な観点からみると、ロマン主義の演奏様式の演奏記号がつけられ、出典や原作に忠実でない等の問題点が多く、今日の声楽教育には理想的とは言えない。

従って、ロマン主義の作曲家の中で、最もベル・カント唱法を実現させたヴィンツェンツォ・ベッリーニ(Vincenzo Bellini:1801-1835)がおり、声楽の勉強を始めようとする学生が、ベル・カント唱法を学ぶために最も適した教材と言えよう。特に、彼がリコディ社から出版した『ベッリーニ歌曲集』(15 Composizioni da camera per canto e pianoforte)は、ベル・カント唱法による声の技術及び表現法、様式感の感得を育成させることができる。このテキストは、メロディが極めて美しく、飽きることなく繰り返し学ぶことができる。さらに、イタリア語の言葉のアクセントと音楽のアクセントが一致しており、理想的なベル・カント唱法を無理なく活用することができよう。しかし、残念なことに、ベッリーニの声楽作品に関する研究は、現在の日本においては進んでおらず、参考となる文献が存在していないのが現状である。

今回、書籍及び書簡集によりベッリーニの生涯と彼の性格や人物像を詳細に研究し、また韻律法と音楽的特性を詳細に分析した結果、ベッリーニが詩をどのように解釈し、作品を生み出すきっかけになったのかを解明できた。

つまり、適切にベル・カント唱法を学ぶことができ、音楽と言葉との正確な対応を習得することが可能となるだけでなく、声楽の勉強を始めようとする学生にとっても、また生涯教育として学ぶ方々にとっても、今後の声楽の歌唱指導に大いに活用して頂き、イタリア歌曲の重要なレパートリーとして歌い継がれていくことを強く望んでいる。

## 成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

イタリア歌曲を歌唱する際には、基礎となる正しい柔軟な発声、イタリア語の詩の明確な発音及び詩の解釈だけでなく、作曲家及び作詩者の心理状態を詳細に理解した上で、心を込めて歌唱することが、より音楽性豊かな説得力のある演奏へ導くことができる。

従って、今回の研究の成果は、大学や短期大学における声楽の実技歌唱指導を行う上での教材として活用することは言うまでもなく、「免許状更新講習」やまた文化センターや自治体で実施されている合唱団、あるいはコミュニティ・カレッジやコミュニティ・サークルでの歌唱指導における「声楽の歌唱指導プログラム」としても活用できるように研究を重ね、地域の自主的な音楽活動の促進に繋がるように尽力していくつもりである。

基礎となる柔軟な発声法としての『ベル・カント唱法』

イタリア語の詩の明確な発音と詩の解釈としての『ベッリーニの歌曲作品』の演奏法と解釈

音楽性豊かな説得力ある演奏へと導くための指導法

## このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成28年度 福岡教育大学学長裁量経費 『研究推進支援プロジェクト』

## プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

音楽教育講座・教授・橋本エリ子(代表)